

育ちをつなぐ～幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進

幼児期の教育では、5領域のねらいを総合的に達成する教育・保育を展開する中で、「幼児期の教育において育みたい資質・能力」（以下、「育みたい資質・能力」）や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（以下、「10の姿」）を念頭に置いた指導の工夫が求められます。

小学校教育においては、「10の姿」を踏まえ、幼児期の教育で育まれてきた資質・能力を生かす指導を工夫し、子どもが主体的に自己を発揮し、学びに向かうことができるようにすることが求められます。

接続期における子どもの育ちをつなぎ、一層伸ばすためにも、地域の園と小学校が年間を通じて連携する体制を構築し、「育みたい資質・能力」や「10の姿」を子どもの育ちを捉える共通のツールとして活用しながら、それぞれの教育に生かしていくことが大切です。

接続期における子ども一人一人の育ちを捉え、つなぐためのツール

幼児期の教育において育みたい資質・能力

＜知識及び技能の基礎＞

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする

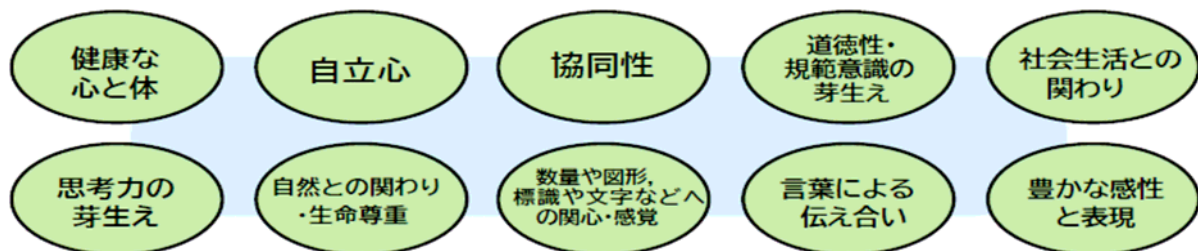
＜思考力、判断力、表現力等の基礎＞

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

＜学びに向かう力、人間性等＞

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（「10の姿」）



育ちをつなぐ取組のポイント

園では

□幼児期にふさわしい経験を積み重ねる指導の充実

- ・各年齢の発達の連続性と必要な経験の理解
- ・発達に必要な体験が得られる意図的な保育の展開と評価を基にした指導計画の改善
- ・「育みたい資質・能力」や「10の姿」を活用した保育改善のための園内研修  p 4
- ・「育みたい資質・能力」や「10の姿」を視点とした子どもの育ちが見える指導要録の作成



園と小学校の連携では

□接続期の学びの連続性を支える教職員の連携

- ・子どもの実態を踏まえた「育てたい子どもの姿」や指導の重点の共有  p 4
- ・保育・授業研究会の参加による教育内容の相互理解
- ・「育みたい資質・能力」や「10の姿」を視点とした子どもの育ちの共有  p 4

□双方に互恵性のある「児童と幼児の交流活動」

- ・幼小それぞれの子どもの育ちを生かした活動の実施



小学校では

□子ども一人一人が主体的に自己を発揮し学びに向かう教育活動の展開

- ・幼児期における遊びを通した総合的な学びを通して育まれてきた資質・能力を生かしたスタートカリキュラムの作成と実施
- ・周囲に認められ、自己肯定感を高めながら更なる意欲や自信を育む工夫

育ちをつなぐ取組の実際

「育みたい資質・能力」や「10の姿」を活用した保育改善のための園内研修



園

保育者間で、「10の姿」につながる各年齢の発達の手え方や、発達に必要な経験の理解にばらつきがあり、保育の展開にもその違が表れていた。そこで今年度は、園目標との関わりが深い「協同性」と「思考力の芽生え」に絞り、各年齢で育みたい資質・能力やその後の発達に必要な経験について共通理解を図るとともに、各年齢の公開保育研究会での協議の視点とし、よさや課題を見いだして保育改善につなげた。

子どもの実態を踏まえた「育てたい子どもの姿」や指導の重点の共有



小

5月に園と話し合いをもち、接続期の連続した育ちや学びを支えていく指導ガイドラインを作成した。

本市の重点「基礎となる力」「学ぶ力」「活かす力」を視点とし、地区の実態を踏まえて、系統性・関連性を持ちながら指導する点を共有できた。

双方の教育活動での指導はもとより、子ども同士の交流や保育・授業参観の機会にもガイドラインを活用し、子どもの育ちを捉えながら指導の改善に生かしたい。



園

子どもの実態を共有しながら、指導ガイドラインを作成して、本市の小学校教育以上の教育で重要視している力を理解することができた。

また、就学までに、保育を展開する上で意識すべきことがはっきりとした。

子どもが主体的に環境と関わる中で、本市の重点につながる主体的な生活態度や創造的な思考、友達と深く関わる力等を育んでいくことができるよう、子どもの育ちを捉えながら保育を考えていきたい。

「10の姿」を視点とした子どもの育ちの共有（保育参観）



小

5歳児の遊びでは、みんなで砂場に作った足湯に何本も樋をつないで水を流そうとしていた。水漏れ等の多くの問題に直面したが、仲間と問題を共有し、試行錯誤しながら粘り強く解決していた。その過程には、友達と新たな考えを生み出しながら工夫する楽しさや、困難を乗り越えて共に味わう達成感など、自己を発揮しながら思考し、友達と力を合わせて目的に向かう気持ちを育む経験が詰まっていた。学び合い、友達と協力して取り組む力を、小学校入学後も十分に発揮させたい。



園

仲間と共に共通の目的を実現するために工夫したり、協力したりしながら自分たちの力でやり遂げる経験を多くさせたい。

解決が難しい時もあるが、その場が、その年齢にふさわしい多くの学びにつながる時は、子ども同士でたっぴりと試行錯誤する時間にする。保育者は、解決に向かう子どものエネルギーを押し測り、状況に応じて考える視点を与えるなどして気づきを促し、子どもが主体的に思考を巡らしながら、友達と共に解決する喜びを味わうことができるように関わっている。

「育みたい資質・能力」を視点とした子どもの育ちの共有（就学前の情報交換）



園

好奇心や探究心をもって、様々な人やことに自分から進んで関わろうとする子どもが多い。小学校での新たな生活や学習を楽しみにしているので、進んで関わろうとする姿勢をぜひ生かしていきたい。

一方、Aさんは、友達に進んで思いを伝えることが得意ではないので、必要に応じて「Aさんはどう思う？」など、思いを話すきっかけをつくる問い掛けをしていた。



小

学校探検など、様々な人やことに関わる活動では、育まれてきた自ら関わる力を存分に発揮できるよう、個人、ペア等の形態を自己選択し、自分の興味・関心、願いを基にたっぴりと調べるようにしたい。

探検での気づきを表現する場面もあるが活動中や日常生活でAさんと積極的に対話をし、気づきを認めながら、話したい思いを膨らませたい。

幼保関連事業

月 日	事業名	対象	会場
8月3日 (火)	就学前・小学校 南地区合同研修会	美郷町、湯沢市、羽後町、東成瀬村の 小学校教員、就学前教育施設教職員等	羽後町文化交流施設 美里音（みりおん）